

I. 神奈川県内 a. 関東ローム層

(21) 富士宝永スコリア 露頭剥ぎ取り標本（茅ヶ崎市東海岸北）

標本番号 KPM-NP 64

標本名 富士宝永スコリア 露頭剥ぎ取り標本

大きさ 幅 0.6 m, 高さ 0.45 m (その他の標本あり)

重量 2.8 kg

形状・展示・収納状況 そのままの状態で大形移動棚に収蔵

採集地 神奈川県茅ヶ崎市東海岸北5丁目

緯度・経度 N35°19'34", E139°25'05"

標高 3 m

露頭の種別と現状 宅地（採集時は空き地）を掘り込んだ切断面、埋め戻し消失

露頭面の向き、傾斜 ほぼ N-S、ほぼ垂直

堆積物の種別 降下テフラ（陸成層）

年代 1707 年（富士宝永テフラ）

採集作業 笠間友博、石浜佐栄子、大島光春

採集日 2015 年 4 月 3 日

関連文献等 太田陽子・瀬戸則子, 1968. 相模湾沿岸の砂丘の組成・時代などに関する若干の知見. 横浜国立大学理科紀要Ⅱ, (14): 35-60.

解説 標本は相模湾沿岸に発達する砂丘群に見られる富士宝永テフラ (F-Ho) である。太田・瀬戸 (1968) は植生、風化層の厚さ、さらに F-Ho を指標テフラとして砂丘を A～D の 4 つのグループに分けた。採集地は海岸より 1 km ほど内陸側の砂丘間低地で、太田・瀬戸 (1968) の砂丘群 C グループと B グループの間に相当する。太田・瀬戸 (1968) によると C グループの砂丘群は F-Ho 噴出時に砂丘はまだ形成途中にあり、F-Ho は砂丘堆積物に覆われる。しかし、より海岸側の D グループは F-Ho 噴出後に発達したため、F-Ho は見られない。一方、より内陸側の B グループ、A グループではすでに形成が終わり、固定されているため F-Ho は砂丘表面に存在する。標本の F-Ho は、F-Ho の二次堆積物を含む砂丘砂とみられる堆積物に覆われている。耕作によるものと推定される乱れがあり、人為の影響があるかもしれないが、F-Ho 堆積後も砂丘砂の堆積があったと考えられるので、C グループに近い環境であったことが推定される。

記録者 笠間友博



図 1a-21-1. 採集地点（国土地理院発行の数値地図 50,000（地図画像）「埼玉・東京・神奈川」を使用）。



図 1a-21-2. 標本を採取する様子 (Hycel SAC-100 を使用)。

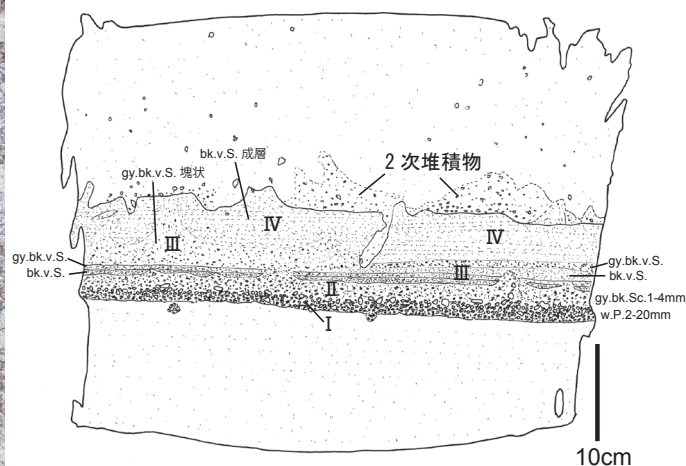


図 1a-21-3. 標本の写真 (左) とスケッチ (右, 笠間原図)。